

事業区分	文化芸術事業		育成・創造事業				
事業名	ヤング・プロデューサーズ・シリーズvol.3 鳥取県青少年郷土芸能の祭典		助成：日本芸術文化振興会				
目的・内容	郷土芸能を地元で支える県内在住の若手プロデューサーを育成する。併せて、青少年の郷土芸能公演を通じて、郷土芸能の素晴らしさを広く県民に伝え、地元の郷土芸能に興味・関心を持っていただくとともに、地域が一体となって子どもたちを支援する環境づくり、後継者育成、県内青少年郷土芸能団体の活性化、ネットワークづくりを図ることを目的とする。また、青少年に大きな舞台での発表の機会を提供し、勇気と自信をもたらすとともに、県外団体との交流（ゲスト出演）による技術向上と意識啓発に繋げる。						
開催日時	平成24年3月18日（日） 開演14:00						
会場	とりぎん文化会館 梨花ホール						
入場料 (友の会・団体)	大人 500円 (400円)	高校生以下・外国籍の方・ 障がい者手帳をお持ちの方及び介添え者1名 無料					
集客状況	入場者数	817名	設定席数	2,000席			
事業費状況	予算額	収入	440,000円	支出	7,733,000円	収支比率	6%
	決算額	収入	1,451,600円	支出	5,531,569円	収支比率	26%
来場者 アンケート (主なもの) 回答者数 168名	<ul style="list-style-type: none"> ・地元でもなかなか関わることがなく、初めて見る郷土芸能。迫力があり楽しめました。 ・子どもさんたちの力強さに元気を頂きました。大変感動いたしました。来て良かったです！ ・郷土芸能のすばらしさを再発見しました。伝承されていくことを願っております。 ・青少年の郷土芸能、継承することの、伝え残すことの素晴らしさに感動しました。 ・泣けるほどにすばらしかった。涙が出るほど。またを楽しみにしています。 <ul style="list-style-type: none"> ・小中学生、高校生の観客が少なかった。多数の生徒さんの参加があれば。 ・高齢者の観客も多いことから、なるべく早く開場して座れる方がいいです。 						
1次評価 (内部)	<p>[成果]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地元の郷土芸能活動者をプロデューサーに起用して、舞台制作課程の管理・推進等を経験する機会を提供し、本事業の目的である地域に根付くプロデューサーの育成を図ることができた。 ・大きな舞台での発表の機会を提供したことにより、熱心に練習したり、新曲に挑戦する等の前向きな取り組みに繋がることができた。 ・アンケートの集計結果より顧客満足度は70%(無回答者を除けば94%)で、郷土芸能の素晴らしさを広く県民に伝え、地元の郷土芸能に興味・関心を持ってもらうことができた。 ・県内で精力的に活動する郷土芸能団体が参加し、団体同士の新たな交流を図ることができた。 <p>[課題等]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域活動のリーダー・指導者となるような者に絞り込んだアートマネジメント研修が必要である。また、今回の出演団体は太鼓団体が多かったが、他の郷土芸能の掘り起しと育成を続ける必要がある。 ・参加団体、鑑賞者ともに本祭典に対する反応はとても良いので、何らかの形で継続性を持たす必要がある。 						
2次評価 (財団評議員)	<p>[成果]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・郷土芸能を地元と県文化振興財団で育成し、守り、県民に広く伝えていく使命は貴重である。 ・民間プロデューサーの採用は意欲的な取り組みで、舞台には小学生の参加も多くて観客の好感を呼んだ。地元紙への投稿も行われ、真剣なPR姿勢も伝わった。プロデューサーを民間に委ねた勇気ある決断をなによりも評価して、今後の継続を期待したい。 <p>[課題等]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生演奏やライティングの工夫で、本来の伝統芸能の情緒を出すのがよい。 ・観客が伸び悩んでおり、対策を立てる必要がある。 ・鳥取県総合芸術文化祭「とりアート」と分断しないで、どこかで連携する意識も必要である。 						
今後の対応、 取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度の反省点であるプロデューサーの業務量や日程への相互理解、状況による双方の業務分担の見直し、アートマネジメント講座の受講、財団担当者の複数制等を改善して、24年度も本事業を推進していく。また、今回の方は24年度からとりアートの地区委員をとして係わるなど大変意欲があり、今後もいろいろな場面において活動していきたいとのことなので、財団としてできる限りの支援、連携を行っていく。 ・本祭典を通じて、改めて青少年による郷土芸能が受け継がれる環境づくりの一助を財団が担わなければと感じたので、こういった形で行っていくかを24年度に検討する。 						